

# 源頼朝公再建八二〇年記念事業

## 対面石八幡神社

平成十四年九月一日 午後五時 斎行

社務所 〒四二一〇九〇六 駿東郡清水町八幡三九番地  
○五五(九七二)四九〇四 宮司宅 ○五五(九八六)二四五九  
ホームページ <http://www.inarijinja.com/yahata/>

平成十四年九月一日 午後五時 齋行

清  
長  
欸  
総  
鎮  
守  
八幡神社境内末社正殿遷座祭 齋行要領

平成十四年九月一日午後四時

習礼しゆらい

# 1 当日早旦仮殿並びに本殿を装飾す

準備指揮 宮司

## (1) 仮殿の装飾

- (イ) 前面（拝殿及旧社殿）に注連縄を張る
- (ロ) 予め、賽銭箱を正中より外す。
- (ハ) 本社拝殿は土足参入のため、ブルーシートを敷き詰める

## (2) 奉還用具等の弁備

- (イ) 概ね次の威儀物を整備する
- 杵 二竿

## (ロ) 概ね次の奉還用具を弁備する

- 大麻 一 枝 塩湯 一口 行障及び絹垣 一 条
- 紫 翳 二 柄 菅 翳 二 柄 松明 二 本

## (ハ) 覆面、手袋、木綿鬘及び木綿褌等を備へておく

但し木綿鬘、木綿褌は参進に先立ちこれを著ける

## (ニ) 電灯の設置してある場所は 予め一斉に点滅し得る

やう設備しておく。

## (3) 本殿の設備

- (イ) 内陣神座をはじめ、本殿の内外を特に清くしつらへ、

## 例祭に準じて装飾する

- (ロ) 予め神饌、玉串など、仮案に弁備する
- (4) 遷御道筋の舗設
- (イ) 道筋を豆砂利にて整備する
- (5) 被所の舗設
- (イ) 神橋（太鼓橋）前に設置する
- (ロ) 神橋隅柱（4本）及び鳥居に篠竹を立て注連縄を張り巡らす
- (ハ) 案・薦・大麻・塩湯を舗設する
- (6) 拝殿以下社務所に至るまで紙垂を著けかへる

## 2 記念撮影

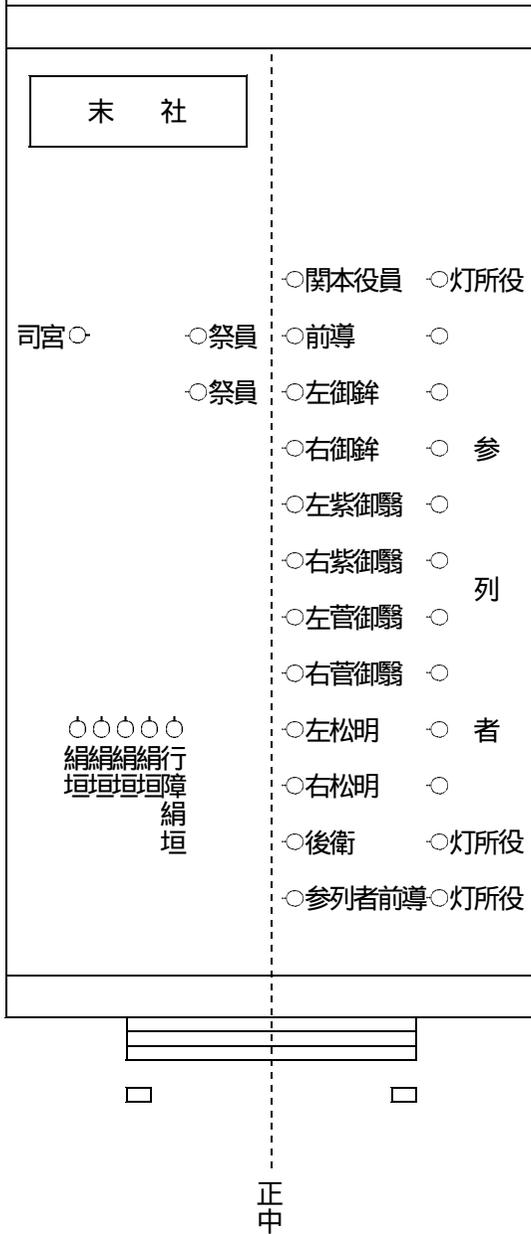
当日午後五時〇分 神職・総代・奉仕者境内末社前庭に整列する

撮影 田中寛

## 3 先づ、手水の儀あり

- (1) 手水舎にて、参列者 奉仕者 総代
- (2) 神職の順に下座の者から行ふ 後取 田中 穀野
- (2) 手水を終った者から順に被所前に列立する

# 拝殿座席位置図



## 5

次に修被

(1) 被主 洋子 大麻 洋子 塩湯 清慈  
 修被の所役は 先づ神橋 次に宮司以下参列者  
 次に境内末社社殿 次に遷座祭神饌玉串の順に被ふ

## 4

時刻宮司以下祭員(神職) 役員総代  
 奉仕者及び氏子崇敬者  
 被所に参進

## 6

(2) 修した後 所役は本社拝殿の自座にて参進を待つ  
 次に宮司以下祭員(神職) 役員総代  
 奉仕者及び氏子崇敬者  
 仮殿に参進

(1) 神職 行障絹垣及び絹垣の各所役は、本社拝殿西  
 側に著床する

(2) 前項以外の所役奉仕者及び参列者は拝殿東側に著  
 床する

報鼓 清慈

宮司一拝に先立ち、尾崎建設株より工事完了届授受

### 7 次に宮司一拝

諸員之に做ふ（俯角九〇度の最敬礼）

- (1) 先づ本社
- (2) 次に末社

### 8 次に宮司祝詞を奏す

此の間諸員平伏（俯角六〇度の敬礼）

### 9 次に禰宜威儀物を各所役に渡す

此の時召立の儀あり 召立 洋子 執物後取 清慈

- (イ) 召立てられたる者は、「オー」と大声で応へ、速かに執物後取の神職にいたり、奉持の品を受け取りて左の「拝殿列立位置図」の位置に列立する
- (ロ) 行障絹垣所役は、行障絹垣を受けた後末社向かつて右側に縦一列に並び、宮司「御」を奉戴し来るまで列立して待つ

## 召立文

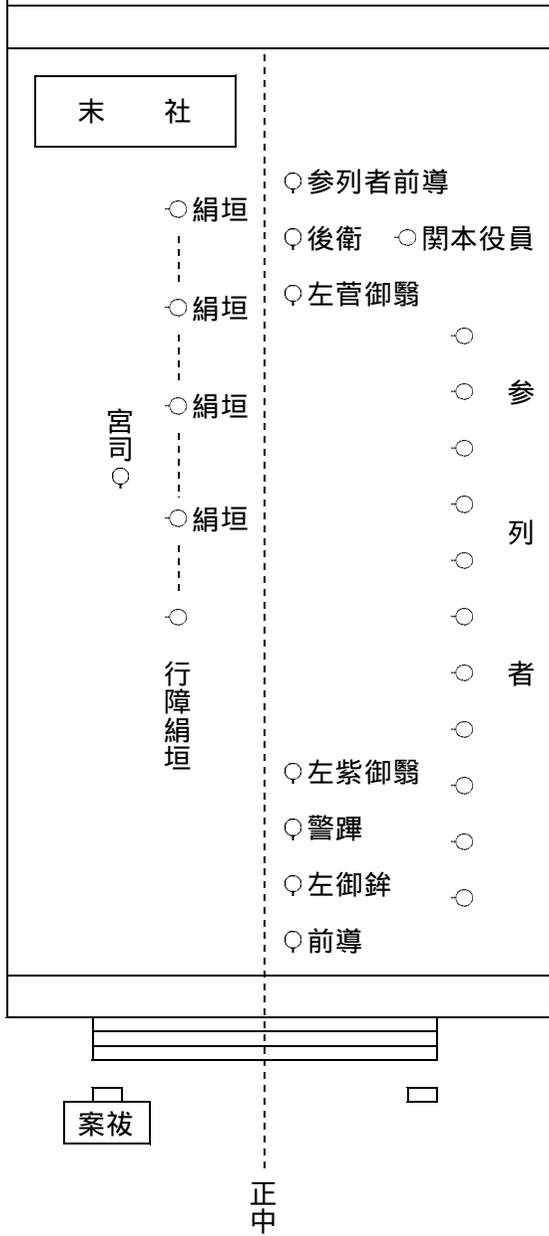
平成十四年九月一日

清水 総鎮守 八幡神社境内末社正殿遷座祭  
長泉

召立之事（めしたてのこと）

| 前陣                          | 後陣                          |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 前導                        | 16 右菅御鬘（みぎりのすげのおんさしは） 大木清隆  |
| 2 左松明（ひだりのたいまつ）             | 15 左菅御鬘（ひだりのすげのおんさしは） 遠藤武子  |
| 3 右松明（みぎりのたいまつ）             | 14 全                        |
| 4 大麻（おおぬさ）                  | 13 全                        |
| 5 左御杵（ひだりのおんほこ）             | 12 全                        |
| 6 右御杵（みぎりのおんほこ）             | 11 絹垣（きぬがき）                 |
| 7 警蹕（けいひつ）                  | 10 行障絹垣（こうじょうきぬがき） 高田泰久     |
| 8 左紫御鬘（ひだりのむらさきのおんさしは） 岩崎實  | 9 右紫御鬘（みぎりのむらさきのおんさしは） 渡辺貞吾 |
| 9 左紫御鬘（みぎりのむらさきのおんさしは） 岩崎實  | 8 行障絹垣（こうじょうきぬがき） 佐藤一夫      |
| 10 右紫御鬘（みぎりのむらさきのおんさしは） 岩崎實 | 7 絹垣（きぬがき） 岩崎充明             |
| 11 行障絹垣（こうじょうきぬがき） 高田泰久     | 6 全                         |
| 12 絹垣（きぬがき） 岩崎充明            | 5 全                         |
| 13 全                        | 4 全                         |
| 14 全                        | 3 全                         |
| 15 左菅御鬘（ひだりのすげのおんさしは） 遠藤武子  | 2 全                         |
| 16 右菅御鬘（みぎりのすげのおんさしは） 大木清隆  | 1 全                         |

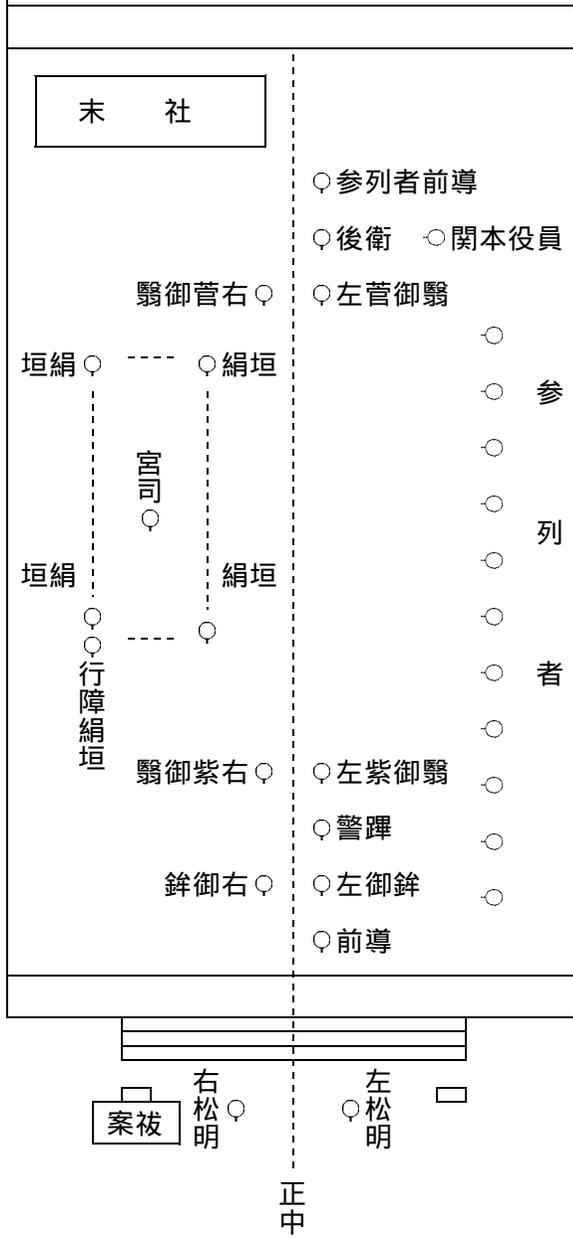
# 拝殿列立位置図



|                    |    |    |      |     |          |
|--------------------|----|----|------|-----|----------|
| 22                 | 21 | 20 | 19   | 18  | 17       |
| 全                  | 全  | 全  | 兼記録係 | 灯所役 | 後衛(ごえい)  |
| 庶役連絡係(しよえきれんらくがかり) |    |    |      |     | 参列者前導    |
| 尾崎建設(株)            |    |    |      |     | 岩崎三雄     |
| 穀野武                |    |    |      |     | 杉山孝芳     |
| 田中寛                |    |    |      |     | 芦川豊昭(建設) |

奉仕者の服装は、  
白上張とする。

# 拝殿列立位置図



10

次に宮司仮殿神座に参入す

11

次に遷御

此の間警蹕 諸員平伏

(イ) 典儀笏拍子を打ちて、消灯を合図し、警蹕所役は警蹕を行ひ、奉拝諸員は俯角六十度の敬礼をする

(ロ) 宮司(覆面、手袋を著ける)神座より「御」を奉戴して仮殿中央にいたる

(ハ) 行障 絹垣及び絹垣所役は「御」を奉戴した宮司を絹垣で蔽ふ  
(拝殿列立位置図 参照)

(ニ) 此の間警蹕所役は、間断なく警蹕を懸ける  
 諸員は「拝殿列立位置図」の位置にて立ち、俯角

六〇度の敬礼を行ふ  
 (ホ) 消灯係は、笏拍子が鳴りたる時消灯す

(ト) 行障、絹垣が「御」を蔽つた後、速かにおよそ次表の如き列次を立て、本殿へと進む  
消灯係 拝殿 芦川 幣殿 田中 事務室 穀野

|    |    |    |   |    |    |   |    |    |    |
|----|----|----|---|----|----|---|----|----|----|
| 前導 | 松明 | 大麻 | 杵 | 警蹕 | 紫翳 | 障 | 絹垣 | 菅翳 | 者  |
|    | 松明 | 大麻 | 杵 | 警蹕 | 紫翳 | 行 | 絹垣 | 菅翳 | 後衛 |
|    |    |    |   |    |    |   | 絹垣 | 菅翳 | 後衛 |
|    |    |    |   |    |    |   | 参  | 列  | 者  |

(チ) 列次中、左右に相対しないものは、左方に就いて進行する

(リ) 大麻及び警蹕所役は「御」の前進、拝殿を出でた

る後は参進列次中の正位置に加はる。

(ヌ) 警蹕所役は出御、入御の際及び御道筋の曲がり角等、要所において、警蹕(一声)を行ひ、大麻所役被を修す

(ル) 進御通路は、拝殿を出でた後本社東側の通路を北進、して末社に至る

## 12 次に入御

此の間警蹕 諸員平伏  
 予め禰宜本殿の御扉を開く

(イ) 行障 絹垣所役は、末社前にて左側(本社寄り)に進み所定の位置にて列立する。絹垣の後尾は末社右側端に至る

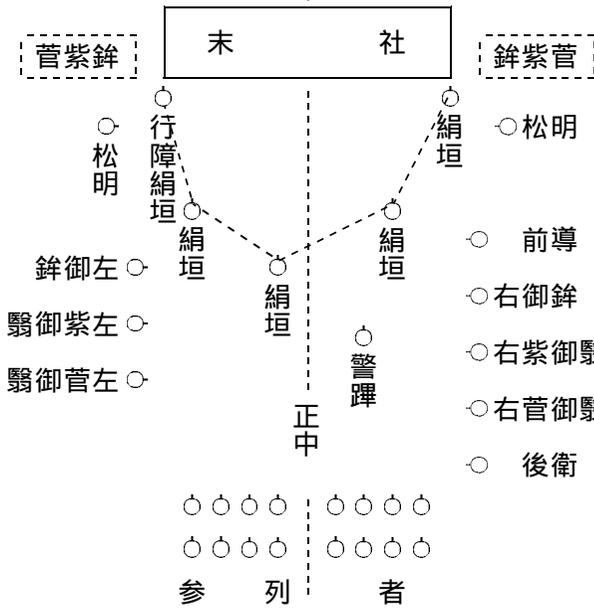
(ロ) 行障、絹垣所役は、宮司「御」を内陣に奉安し畢るまで蔽ふ 畢りたる後は、絹垣を巻いて末社向かつて左側面に立てかけ、召立が終るまで所定の位置に列立する

(ハ) 警蹕所役は、末社正面に至りたる後は奉安し畢るまで、間断なく警蹕を懸ける

(ニ) 点灯係は笏拍子が鳴りたる時、点灯する

点灯係 拝殿 芦川 幣殿 田中 社務所 穀野

# 境内末社列立位置図



(ホ) 各所役及び参列員は、末社前に至りたる後、左の境内末社列立位置図の通り列立し、神座に「御」を奉安し畢るまで（警蹕の懸かっている間）俯角六〇度の敬礼を行ふ

13 次に禰宜威儀物を各所役より受く

此の時召立の儀あり

(イ) 鉾、翳など奉持の所役は、召立てられたる時速かに進み出で、執物所役の神職に渡す

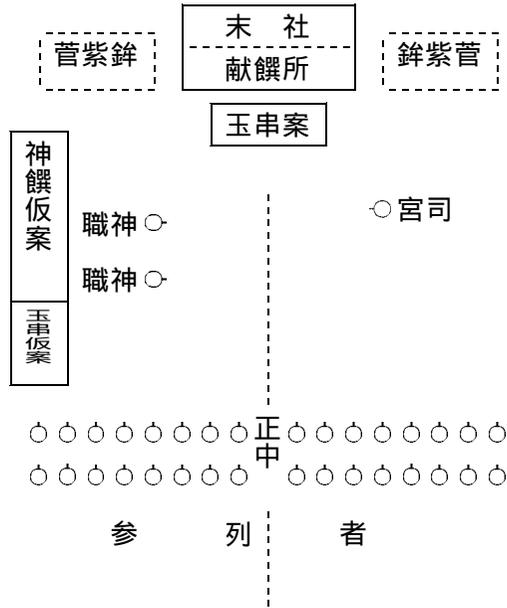
(ロ) 奉持の所役は、「召立」が終はりたる後、速やかに胡床（神事用椅子）を末社前庭に並べ、奉拝諸員の著床を促し、自らも著床する

14 次に禰宜以下祭員総代奉仕者及び氏子崇敬者所定の座に著く

15 次に禰宜以下祭員神饌を供す

配膳 洋子 膳部 清慈

境内末社列立位置図



16 次つぎに宮司くうじ祝詞のりごとを奏そうす 此この間諸員かんしよいんへいふく平伏

17 次つぎに宮司くうじ玉串たまぐしを奉たてまつりて拜礼はいれい 禰宜ねぎ以下祭員いかさいいん(神職しんしやく)列拜れつぱい 玉串後取 洋子 案薦後取 清慈

18 次つぎに総代そうだい以下参列員かさんれついいんたまぐし玉串たまぐしを奉たてまつりて拜礼はいれい

玉串後取 清慈

19 次つぎに禰宜ねぎ以下祭員いかさいいんしんせん神饌しんせんを徹てつす

配膳 膳部 献饌と同じ

20 次つぎに宮司くうじ御扉みとびらを閉とぢ畢おはりて所定しよていの座まに著つく 此この間警蹕かんけいひつ 諸員しよいんへいふく平伏

21 次つぎに宮司くうじ一拜いっぱい 諸員しよいん之これに倣ならうふ